

捨てられたごみを資源にする分別について



ご来場いただいた皆さまには、会場内に設置された 3R ステーション（ごみ箱）にごみを捨てる時に、9 種類に分別（トイレ等に設置しているおむつの回収は除く）していただきます。9 種類の分別は、非常に多いと思われる方もおられるかと思いますが。

「ご来場者のごみの分別区分」

1	飲み残し水
2	生ごみ
3	缶・びん
4	ペットボトル
5	ペットボトルキャップ
6	プラスチック類（発泡スチロール・発泡トレイ含む）
7	紙類
8	燃やすごみ
9	燃やさないごみ

※分別の種類の詳細は、3R ステーションに表示している二次元コードからもご確認いただけます。
（ご参考：<https://act.qrtranslator.com/0016000048/000001>）

一般的な名称であるごみステーションではなく、3R ステーションと命名しているのは、ごみではなく全てが資源になるようにという想いからです。また、普段は「燃えるごみ」「燃えないごみ」と表示されているごみ箱が多いかと思いますが、会場内では「燃やすごみ」「燃やさないごみ」としています。これは、3R ステーションへ持ち込む皆さまが、「燃やす」「燃やさない」とのごみを意識いただくことで、リサイクル可能なごみも分別いただき、資源循環、さらには SDGs の目標達成へと繋げていきたいからです。

「分ければ資源」と言われるように、捨てられたごみを適切に分別すれば、リサイクルできるため資源となります。

会場内で捨てられた紙類（紙ごみ）はトイレトーパーに生まれ変わり、フューチャーライフゾーンのトイレに戻ってきます。生ごみはお弁当を購入して食事を残した場合、容器から残飯のみを取り除いて分別します。そうすることで堆肥やメタネーション施設でのエネルギーの元となります。ペットボトルは中身を空にし、キャップとラベルを剥がして分別することで、ペットボトルから新たなペットボトルに再生されます。

このように会場内では、来場者の皆様が積極的に分別にご協力いただくことで、燃やすごみ、燃やさないごみを減らして、リサイクルできる資源が増えます。

9 種類の分別に戸惑わないよう、3R ステーションにはごみの分別方法を教えてくれるスタッフがいますので、困ったらお気軽におたずねください。

以上